

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺
慈雲会
〒604-8214
京都市中京区新町通蛸薬師下る
百足屋町375番地
TEL (075)221-4616
zuirenji@hotmail.com
http://www.zuirenji.net/
Shinshū Ōtani-ha
Jiunzan Zuirenji
Jiunkai

慈雲



以佛力故
當得見彼
清淨國土
如執明鏡
自見面像
見彼國土
極妙樂事

仏力（ぶつりき）をもつてのゆえに、当（まさ）にかの清淨（しようじょう）の国土（こくど）を見ること、明鏡（みやうきやう）を執（と）りて自（みずか）ら面像（めんざう）（を）見るがごとく、かの国土の極妙（ごくみやう）の樂事（らくじ）（を）見ることを得べし。

【『観経』の言葉】

前回の慈雲で娑婆と浄土は十万億土離れた処でなく実は竹の薄い膜一枚隔てたところが浄土の境界は距離の問題ではありません。浄土の景色ではすべてが仏さまの世界の物や事、これを「極妙の樂事」といわれます。それは鏡で自分の顔を見るようにはつきりと見える。何ひとつ訝しく見えるものはない。それは今までの景色が消えて新しく美しいものが現れるのではありません。これまで慣れた景色がそのままです。生きてきた輝きを持って蘇って見えるのです。コロナ以前は当然のこととして見ていた景色が私にとって大切な得難いものとして受け止められるようになり同じ日常生活が輝きをもって見えるようになりました。ではないでしょうか。

報恩講のご案内

今年も報恩講の季節が巡って参りました。瑞蓮寺では毎年十一月の第二日曜日にお勤めします。報恩講は御正忌（ごしよき）ともいい、宗祖の親鸞聖人のご命日（旧暦十一月二十八日）にその恩徳をしのび、ひいては私たちの身近な人々のご恩に報いるための行事です。ご門徒の皆さまは日頃からお家のお内仏（仏壇）でご先祖様に手を合わせておられますが、年に一度お寺で皆様とご一緒にお参りをされませんか。ご家族おそろいでどうぞお参りください。

日時 十一月十二日（日）午後二時

報恩講

引き続き帰敬式

お斎（とき）

YouTubeライブ配信は左のQRコードを読み取ってください。



「おみがき」のご案内

十一月九日（木）午前九時より

十二月十七日（日）午前九時より

帰敬式（ききょうしき）について

上の段で案内した通り報恩講並びに帰敬式という行事を執り行います。これは仏さまの弟子になるといいう儀式を受けて法名をいただくというものです。法名といいますが「亡くなられた時につけてもらう名前」と思っておられる方がありますがそうではありません。阿弥陀如来の本願を根本とする浄土の教えにご縁があり、浄土真宗を開かれた親鸞聖人のみ教えを聞きながら日々の暮らしをお念仏と共に生きていくというしるしの名前が「法名」です。瑞蓮寺では十五年前から報恩講の際に帰敬式を併せて執り行っており、これまでに七十三名の方が受式されました。年齢は受式時で四十代から九十代の方までおられます。儀式は難しいものではありません。別名「お剃刀（かみそり）」ともいい、剃髪をする様子をまねて儀式用の剃刀を執行者が頭に当てて三回剃る型をとります。

帰敬式を受けて法名をもらわれた方はその後、ご自分の法名をセカンドネームのように随所で使われたりします。一度、受式をお考えください。

編集後記

○慈雲六十九号をお届けします。現在毎月第二日曜日に「日曜礼拝」を行っています。朝九時から十時までです。まず参加者全員で正信偈（しんげ）をお勤めしその後僧籍のある者が担当を決めて法話をします。瑞蓮寺では住職、坊守、若住職、Kさんの四人が順番にお話しします。それぞれの法話の特徴を少し見てみましょう。若住職は構成をしっかりと考えてきて起承転結もあり聞きやすい話をします。題材はとかく当たり前だと思ってしまう。Kさんはもともと瑞蓮寺のご門徒でしたが縁あって僧侶になった人です。コンピューター関係のお仕事をされているという事もあり、直近のテーマはAIと仏教の関わり等まさに現代と仏教の問題をよく取り上げます。坊守は他の研修会や聞法会で聞いたことを身近な出来事を通して、わかりやすく話しています。同じ先生のお話を聞いても私と違うところに関心を示します。住職の私はどうとまとまりがなく、その時に思い付いたことをしゃべっている始末です。反省しています。